

10月の窓

秋は収穫の季節で、果物王国とも言われる山形県では、これからおいしい果物が実る時期となります。果物以外では、日本人にとって昔から重要だったのはお米と言えます。春の苗代作りと田植えから秋の稲刈りまでおよそ半年かけて収穫されるだけに、新米を作る人にとっても食べる人にとってもありがたいものです。俳人の長谷川権さんは、俳句の本で蕪村の句を紹介していました。

新米も まだ艸（くさ）の実の 匂ひ哉……………蕪村

新米は草の実と同じ匂いがするというもので、秋の日射しをいっぱい浴びて乾かした新米の香りのする一句であると、長谷川さんは解説していました。

高浜虚子にも新米を詠んだ句があります。

新米の 其一粒の 光かな……………高浜虚子

新米は味も香りも素晴らしいですが、目にした時の輝きが違います。その一粒ひとつぶの輝きを詠んだ句でしょう。

夏休み前から、多くの部が1・2年生主体の活動となりましたが、9月中旬、1・2年生が主体となって初めての公式大会となる村山地区総合体育大会（新人大会）がありました。主な団体種目では、山岳部が男女とも2位に相当する優秀賞で、女子ハンドボール、男女テニス団体、男子ソフトテニス団体が3位という成績でした。個人種目でも、水泳男子100メートルと200メートルの平泳ぎで1位などの成績を残した他、部活動以外の種目でも、体操男子個人総合1位、なぎなたの個人試合での1位などの成績を収めてくれました。多くの部活動が、これから開催される県大会へ出場することになりますが、一足早く開催された陸上競技の県新人大会では、3種目で東北大会への出場権を得て、先日の東北大会でも2種目で入賞という成績でした。また、野球の秋季県大会の地区予選では第三次代表決定戦で勝利し、7年ぶりの県大会出場となりました。

村山地区総体と同じ日程で開催された「山形地区高校演劇合同発表会」では、市内11の高校の演劇部の上演がありました。本校演劇部の作品は、坂口安吾原作の「夜長姫と耳男」で、2日目最後の上演となりました。8月末の山東祭で一度見ていましたが、昨年「マホロロスの夜」がよかっただけに、今年はどうかなとちょっと不安に思うところもありました。しかし、当日の上演を見て、不安は吹き飛んでいきました。半月という短い期間にいろんなところを修正して、すばらしい上演をみせてくれたのです。10月中旬の「山形県高等学校演劇合同発表会」への出場

が決定し、昨年に続いての東北大会出場をめざすこととなります。

生徒だけでなく、本校職員もいろんな分野で活躍しています。

テニス部顧問の那須祐介先生が監督を務めるテニスの山形県成年男子団体は、東北総体で優勝し、10月に長崎県で開催される国体に監督として出場することになりました。国体では、成年男子に加えて、少年男子の監督も務めることとなります。

美術部顧問の布施弘好先生が出展した作品は、第69回県総合美術展の彫刻部門で県展賞を受賞しました。県展賞は、平成18年に続いて2度目とのことでした。最初の写真が県展賞の「輪音」で、生を積み重ねる年輪の「音」を表現したものとのこと。先生は「木の表面の良いところを生かすようにして、今回は節が人の肩に見えたのでその部分を使った」と話していました。左肩のところは、ちょうど節になっているのかわかるでしょうか。布施先生は、この4月本校に赴任しましたが、3月までは鶴岡中央高校に勤務しており、素材となりそうな流木を拾いに、よく庄内浜に行っていたそうです。もう1枚の写真はやはり木を使った「鼎」という作品で、しばらく本校に展示させてもらいました。



前にも書いたと思いますが、本校は今年創立130周年を迎え、10月29日には、創立130周年記念式典を開催します。また、130周年の記念事業として、同窓会と本校が共同で主に4つの事業に取り組んできました。一つ目が東日本大震災の記録作成で、「東日本大震災と山形東高の生徒・同窓生の記録」を発刊します。二つ目が記念コンサートの開催で、バイオリン奏者の松田理奈さんのコンサートを10月23日に開催します。三つ目が母校歴史資料の保存と展示で、8月末の山東祭でも本校に関わる歴史資料の展示を行いました。四つ目が西校門周辺の整備で、西側の生徒通用門を少し西へ移設し、昇降口前と武道館前を舗装します。さらに、桜の木の下にストーン・スツール（石でできた一人用の椅子）を設置し、新たに時

計塔を設置していただくことになりました。最初の三つは、ハードウェアよりもソフトウェアに重点を置いて、記録や記憶に残るものに取り組むということで進めることになったと聞いております。その中で、四つ目は、形としても残るものになります。

西校門周辺整備は、諸事情から少し遅れておりましたが、9月に大きく進展しました。最初の写真は、9月26日に工事が始まって間もない頃のもので、次の写真は、29日、舗装が一部完成したものです。



次の写真は、9月30日のもので、舗装もほとんど完成しました。次の写真は、10月2日、ストーン・スツールも設置された時のものです。



次の写真も同じ10月2日のもので、駐車場の区画線もきれいにひかれました。その次の写真は、木の下に設置されたストーン・スツールで、なかなかしゃれたものです。時計塔はまだ設置されていませんが、10月中旬には完成する予定で、記念式典にも間にあうこととなります。なお、この時計塔は、本校卒業生で、イタリアの有名な自動車であるフェラーリなどのデザインも行った奥山清行さんにデザインしていただいております。図面上は私も見せてもらっているのですが、完成品がどのようなものになるのか楽しみです。完成したら、近いうちに紹介したいと思います。



最後に、今回は、名所・旧跡ではありませんが、毎年9月に開催される「日本一の芋煮会」を紹介します。この芋煮会は、平成元年に始まり、双月橋付近の馬見ヶ崎河川敷で開催されます。本校からも、歩いて10～15分で行けるところになります。昨年までは9月の最初の日曜日に行われていましたが、気候が暑いこともあり、今年は9月14日（日）の開催となりました。

「日本一の芋煮会フェスティバル」公式サイトの説明によると、直径6メートルの大鍋に里芋3トン、牛肉1.2トン、こんにゃく3,500枚、ねぎ3,500本、味付け醤油700リットル、隠し味に日本酒50升、砂糖200kg、山形の水6トンを入れ、6トンの薪で煮炊きするとのことでした。最初の写真がその大鍋で、普段は会場となる河川敷近くの道路沿いに置かれています。実はこの鍋は二代目で、初代の大鍋「鍋太郎」は、馬見ヶ崎川の上流にある唐松観音前広場で見ることができます。最初の写真が現在使われている二代目の大鍋で、次の写真はその移動や設置に使われるクレーン車です。今年の芋煮会は、村山地区の新人大会と日程が重なったため見に行くことはできませんでしたので、芋煮会の次の日に行って後片付けの様子を撮影してきました。大鍋は、元の位置にもどされていました。

